



一層のご支援を  
お願いします

自由民主党総裁 谷垣禎一

戸別所得補償制度がもたらしている米価の大幅引き下げ、大切な農業の担い手づくり予算である強い農業づくり交付金の大幅削減、加えて、突然のTPPへの参加表明など、民主党農政は、我が国農業の脆弱化を招き続けています。

自民党は、残念ながら今は野党ではありますが、必ずや皆さんのご支援のもと与党に復帰し、民主党農政を改めます。その大きな役割を山田としお参議院議員が果たしてくれることと確信しています。

週2回は、総務会で私の目の前に座る山田さんと顔を合わせています。そして素晴らしい見識を披露してくれています。農政にける山田さんの情熱には感服しています。山田さんへの一層のご支援を私からもお願いいたします。



予算委員会で過剰米対策について菅総理を徹底追及(8月4日)



「TPP参加の即時撤回を求める会」記者会見に出席(11月4日)



動物感謝デーであいさつ(10月2日)



全国たばこ耕作組合同長代表者会議であいさつ(11月16日)



「TPP交渉への参加に反対し日本の食を守る緊急全国集会」デモ行進(11月10日)

山田としお活動報告

大切にしよう!  
ふるさとの  
山と田んぼ



JA道央(北海道)の大豆産地を視察(10月18日)



中曽根弘文参議院議員会長らと群馬県の皆さんと意見交換(10月19日)



富山県の皆さんとTPP交渉への参加反対を訴え(11月10日)



茶業振興法案の取りまとめ役として静岡県内で茶工場を視察(9月13日)

山田としおホームページ <http://www.yamada-toshio.jp/>  
「山田としおメールマガジン」会員募集中!(ホームページからお申し込みを)

参議院農林水産委員会の  
質疑応答要旨

過剰米対策を追及

大臣から前向き答弁を引き出す

〈山田俊男委員〉「米の概算金をめぐる状況と今後の対応について」という農水省三局長連名の通達が出されている。米価が下がっているのは、概算金を低く設定した責任だとか書かれている。撤回してもらいたい。

〈鹿野道彦農林水産大臣〉概算金の設定だけが責任というのではなく、互いに今の米を取り巻く状況について理解し合おうという意味で通達を出した。大臣を拜命してから、二度にわたって全中会長、それぞれの関係者と会っている。重要な要請を聞いている。これからは積極的にやっつけていきたい。

〈山田委員〉集荷円滑化対策で、生産者が拠出した321億円がある。21年産米の環境改善のために、この拠出金を有効かつ的確に使うという案は検討できないのか。

〈鹿野大臣〉この拠出金をどのように使っていくかは、団体の関係者らとも打ち合わせをしながら、今後検討したい。

〈山田委員〉米の過剰在庫は、はじめに生産調整に取り組んできた地域への生産数量目標の削減につながる。棚上げ対策を含めた備蓄の前倒しについて見解を聞きたい。

〈鹿野大臣〉これからの主食用米の生産量なり、あるいは需要の動向なり、民間在庫の状況などを踏まえて、具体的に検討していきたい。

〈山田委員〉22年産米の品質が低く、一部地域で大きな問題となっている。大丈夫だと、共済の申請なしに収穫もみすりをして乳白米等であり、全て規格外になった例が多い。こういう地域への特例措置等を検討しているのか。

〈鹿野大臣〉そのような農家にとっては大変深刻な事態。過去にも宮崎県や鹿児島県などで乳白米等の被害があった時、農業共済団体が営農活動を支援するという特例措置を講じたことがあった。そういう中で、農業共済として適切に検討してもらえないか要請している。

TPP参加を追及  
大臣は苦しい答弁に終始

〈山田委員〉(環太平洋経済連携協定)への対応については、民主党内でも意見の相違があるようだ。篠原副大臣は、TPPに対してどんな姿勢なのか。

〈篠原孝農林水産副大臣〉総理が所信で述べたことだから、政府で一生懸命検討している。検討すればするほど、なかなかすぐ参加するのは難しいかなというのが、今のところの実感だ。

〈山田委員〉「農林水産業はGDP(国内総生産)で1.5%だから、残りの98.5%の鉱工業製品が犠牲になっている」という外務大臣の認識はとんでもない。農林水産大臣として抗議したのか。

〈鹿野大臣〉基本的には農林水産業は数字だけで判断されるべきものではない。工業と同列に並べるといふことにはいかな面がある。多面的機能の発揮ということも含め、農林水産業の大切な役割をこれからも主張していく。

〈山田委員〉これまでのEPA(経済連携協定)は、政府も農業団体も一緒に議論し、議論に論議を重ねて締結を決めた。

〈鹿野大臣〉これからはEPAは推進していくかなければならない。国民全体の生活を考えた時には市場を広げていかなければならない。一方、農村農業の振興を図っていく必要がある。どうやって両立させるかが非常に重要だ。今までより一歩踏み込んだ考え方でいかなければならない。

(10月21日)